

一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会 (EVPOSSA)

2019 年度事業計画書

2019 年 4 月 1 日 ~ 2020 年 3 月 31 日

1. まえがき

日本国内では、2018 年 8 月に政府の「自動車新時代戦略会議」において、長期ゴールとしては、「2050 年までに世界で供給する日本車について世界最高水準の環境性能を実現する」ことを目指すこととしており、乗用車の電動車率は 100% に達することが想定されています。長期ゴールに向けたマイルストーンとして、2030 年までに新車販売に占める次世代自動車の割合を 50~70% とおき、その内、電気自動車およびプラグイン・ハイブリッド自動車の割合を 20~30% を目指すとされており、これをふまえた充電インフラの整備も望まれるところとなって参ります。また、EV・PHEV のバッテリーを災害対策の電力インフラとして利用し、さらには VPP (Virtual Power Plant) の実証等の取組みを通じて、再エネ電力の出力変動の調整に活用するなど、新たな社会的な価値を生み出すことが期待されております。

直近での、充電インフラの普及に向けての導入補助金制度については、2018 年度は 15 億円で整備されました。以降の補助金額も年々減額傾向となってきておりますが、新車販売台数に占める EV の台数は 1% 前後であり、今後も EV 普及のための充電インフラでの新たな需要・価値の創出や施策の提言や、補助金に頼らない普及策の展開が望まれる状況となっております。

このような状況下において、EVPOSSA としては普通充電器の普及促進活動と電動車両用電力供給システムにかかわる協議を進め、関係省庁及び関係団体のご指導とご支援を頂き、会員の皆様とともに安全・安心な普通充電器の普及促進とあわせて電動車両用電力供給システムにかかる新しい技術課題にも引き続き積極的に取り組んでいきます。

2. EVPOSSA の活動

2.1 EVPOSSA ビジョン

EVPOSSA の活動の更なる充実に向けて、電動車両用電力供給システムにかかる視点から下記に掲げるビジョンを基本方針として具体的成果の得られる活動を行います。

- (1) 移動したくなる社会づくり
- (2) コミュニケーションの活性化
- (3) 人にやさしい充電インフラの提供
- (4) 自然・災害に強い仕組みづくり

2.2 委員会・部会の活動計画

2.2.1 企画運営委員会

活動内容

- (1) 普通充電器の中長期普及を目指した課題の検討
- (2) 普通充電器の利便性を高める課題の検討
- (3) 普通充電器の短期普及を目指した提案活動

2.2.2 技術課題検討部会

活動内容

- (1) 第三者認証制度の課題解決と会員の認証取得推進
- (2) AC 普通充電器普及に向けた技術課題解決活動の推進

2.2.3 普及促進部会

活動内容

- (1) 充電インフラ市場の拡大
- (2) ユーザーの利便性向上
- (3) 関係団体との連携
- (4) EVPOSSA の価値向上